

# シラバス

## 1. 内容

宣教学 (Missiology, Mission Studies) は、キリスト教の伝道について学ぶことではありません。キリスト者や教会が神によってこの世に遣わされて (mission) いるとはどういうことかを、神学・歴史学・社会学・宗教学・人類学・心理学などを用いて考えることです。ですから、神と教会と世の中の相互関係を様々な角度から考察するクラスです。

## 2. 目的

21世紀の日本の中でどのように福音を宣べ伝えたいのかが、大きな課題となっています。同時にそれは、「福音とは何か」の問いにもなります。今までの宣教は、西欧文化中心の、西欧の視点からの宣教でありました。現代の宣教学は各文化や各社会に応じた宣教の在り方を模索・研究する方向へと移行しています。ですから、現代という社会や日本のコンテキストを知る必要があります。幅広い分野ではありますが、聖書のアイディアを現代社会に、それも日本という文脈にどのように適応していくかが目的です。このクラスでは、基本的な宣教の考え方を総論的に学びます。宣教論Ⅱおよび宣教論Ⅲのクラスにおいて各論的な学びをします。勿論、このクラスも日本の宣教を抜きにしては考えることはできません。

## 3. メイン・テキスト

テイヴィッド・ボッシュ「宣教のパラダイム転換上・下」(東京ミッション研究所、1999・2001)

## 4. サブ・テキスト

レスリー・ニュービギン「宣教学入門」(日本キリスト教団出版局、2010)

クリストファー・ライト「神の宣教 第1～3巻」(東京ミッション研究所)

## 5. 概略

宣教学の世界でスタンダードな教科書として用いられているテイヴィッド・ボッシュから学びます。内容や目的にも書きましたが、宣教学は幅広い分野であり、聖書と私たちの生活(社会)をどのように結びつけたらいいのかを考える具体的な実践神学の世界です。「パラダイム」という枠組みを通して宣教のあり方を提示しているボッシュは、ポスト・モダン社会の中で私たちが行くべき道を教えてくれています。ニュービギンやライトもそれぞれの視点から宣教の枠組みを提示してくれています。ボッシュをメイン・テキストとして適宜サブ・テキストを用いながら授業をすすめていきます。

## 7. 課題と評価(ポイント制)

(1) クラス出席・テキスト読書・発言

15回×2P = 30P

受講者は、クラス出席・テキスト読書とクラスでの話し合いに積極的に参加すること。

\* 欠席およびその日のテキストを読んでいないとポイント獲得がなくなります。

(病気など理由がある場合は教師まで申し出て下さい。)

\* テキスト読書は毎回クラスの時に確認します。

- (2) レスポンスペーパー 10回x2P=20P  
各クラスの最後に「お題」を出しますので、それに対するレスポンスを A4 一枚にまとめて次のクラスの開始前に提出してください。(Eメール不可)  
\* 提出が遅れたり、ない場合はポイントがなくなります。
- (3) フックレポート&プレゼン 20P  
参考図書の中から本を選び、本の内容に対する自分の考えをフックレポートに書き、クラスの中で発表すること。  
\* 分量:A4で1枚(フォントサイズは12ドット、行間は1、余白は自由です。)  
\* 提出が遅れるとポイントが減ります。
- (4) 小論文 30P
- ① テーマ: 未定(追って連絡します)
  - ② 分量:A4で5枚まで(フォントサイズは12ドット、行間は1、余白は自由です。  
\* 提出が遅れるとポイントが減ります。

## 8. 参考図書

- A) 日本ローザンヌ委員会 「ケープタウン決意表明」(ことば社、2012)
- B) スコット・マクナイト 「福音の再発見」(キリスト新聞社、2013)
- C) レスリー・ニュービギン 「ギリシャ人には愚かなれど」(新教出版社、2007)
- D) ウィリアム・ウィリモン 「教会を必要としない人への福音」(日本キリスト教団出版局、2008)
- E) ジム・ピーターセン他 「福音のためのインサイダー」(国際ナビゲーター、2009)
- F) ラス・カサス 「インディアスの破壊についての簡潔な報告」(岩波書店、1976)
- G) 東京ミッション研究所編 「これからの日本宣教」(東京ミッション研究所、1994)
- H) ロバート・リー 「日本と西洋キリスト教」(東京ミッション研究所、2005)
- I) 越川弘英編著 「宣教ってなんだ?」(キリスト新聞社、2012)
- J) 森一弘 「これからの教会のありようを考える」(女子パウロ会、2011)
- K) 渡辺裕子ほか 「日本植民地支配と「熱河宣教」」(ことば社、2011)
- L) 米内宏明 「見上げる空」(ことば社、2014)

\* その他、適宜クラスの中で紹介する。